

アルバート・AINSHUTAIN
Old Grove Rd.
Nassau Point
Peconic, Long Island
1939年8月2日

F. D. ローズベルト合衆国大統領
ホワイトハウス
Washington, D.C.

拝啓

E. フェルミ, L. シラードから届いたその最新の研究の草稿を目にしたところ、ごく近い将来、ウラン元素が新しい重要なエネルギー源となりうると期待されます。これに関連するある種の状況は、政府がこれに注目すること、場合によっては速やかな行動を必要とするものです。したがって、以下のような事実と勧奨を閣下にお伝えすることは小生の務めと考えます。

過去4カ月間のアメリカのフェルミ、シラードに加えフランスのジョリオの研究により、大量のウランにおいて核分裂反応を起こすことが可能となり、ここから膨大なエネルギーが放出され、ラジウム類似元素が大量に生成されることになるでしょう。ごく近い将来、これが実現されることはほぼ確実と思われます。

この新しい現象は爆弾製造に利用でき、まだそれほど確実とは言えませんが、著しく強力な新型爆弾を製造できる可能性があります。この種の爆弾は、船舶で輸送して港湾で爆発させれば、ひとつで港全体とその近隣を容易に破壊できます。ただし、この爆弾は航空機での輸送には重すぎるかもしれません。

合衆国には、非常に低質のウラン鉱があるだけです。カナダ、旧チェコスロバキアには良いウラン鉱がありますが、最も重要なものはベルギー領コンゴにあります。

この状況に鑑み、政府は国内の連鎖反応の研究者と恒続的な接触を持たれることが望ましいと考えられるかと思います。そのための一つの方法として、信頼がおけ、かつ非公式な立場で仕事ができる人物にこれを一任されることが考えられます。この人物の仕事は、以下のようなものになると思われます。

- a) 政府と接触して、今後の進展状況を伝達し、特に合衆国のウラン鉱確保問題に配慮しつつ、政府の施策にアドバイスを行なうこと。
- b) 研究資金が必要な場合、これに賛同する民間人を通じて資金を提供することにより、また必要な機材を有する企業の研究室の協力を得ることにより、現状では大学研究室の限られた予算で行われている実験研究を加速すること。

既にドイツは、接収したチェコスロバキア鉱山からのウラン輸出を実際に停止したと聞いています。ドイツ国務次官フォン・ヴァイツゼッカーの子息が、ウランに関するアメリカの研究を追試しているベルリンのカイザーヴィルヘルム研究所に所属していることを考えれば、この迅速な行動もおそらく理解しうるものといえます。

敬具
アルバート・AINSHUTAIN